

～ 林原賞 ～



末久 弘

略 歴

昭和41年7月27日生
平成10年3月 宮崎医科大学医学部卒業
平成10年5月 岡山大学医学部附属病院第二外科入局
平成10年9月 屋島総合病院外科 医師
平成12年9月 住友別子病院外科 医師
平成14年9月 玉野市民病院外科 医師
平成15年9月 岡山大学医学部・歯学部附属病院 腫瘍・胸部外科
医員
平成17年6月 岡山大学医学部腫瘍・胸部外科学 研究生
平成19年4月 四国がんセンター外科 医師
現在に至る

研究論文内容要旨

*EGFR*変異は主に肺腺癌に認められる遺伝子異常である。Uracil-tegafur (UFT) は術後肺腺癌の補助療法として有用であることが確認されている。本研究は、腫瘍・胸部外科において切除された肺腺癌患者187名を対象とした。

結果として、*EGFR*変異陽性の症例では、UFTによる補助化学療法の予後延長効果はないが、*EGFR*変異陰性の症例では、UFTの予後延長効果があることを示した。さらに、*EGFR*野生型ならびに変異型細胞株を用いた実験を行い、上記の現象を確認した。